

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果と今後の課題

こども教育課

1 教科別の正答率

A：主として知識を問う問題

B：主として活用を問う問題

平成 28 年度小学校 6 年正答率			
	全 国	糸魚川市	比較
国語 A	72.9	75.7	+2.8
国語 B	57.8	55.9	-1.9
算数 A	77.6	78.8	+1.2
算数 B	47.2	44.0	-3.2



平成 29 年度小学校 6 年正答率			
	全 国	糸魚川市	比較
国語 A	75	78	+3
国語 B	58	57	-1
算数 A	79	79	0
算数 B	46	44	-2

平成 28 年度中学校 3 年正答率			
	全 国	糸魚川市	比較
国語 A	75.6	76.8	+1.2
国語 B	66.5	66.1	-0.4
数学 A	62.2	62.5	+0.3
数学 B	44.1	42.1	-2.0



平成 29 年度中学校 3 年正答率			
	全 国	糸魚川市	比較
国語 A	77	77	0
国語 B	72	71	-1
数学 A	65	66	+1
数学 B	48	47	-1

(平成 29 年度から平均正答率は小数点第 1 位を四捨五入し整数で公表)

2 成果・課題

(1) 成果

- ・ 小学校の数値は両方とも向上しており、中学校は前年度と同程度の数値を維持した。各学校での取組が効果を表しつつある。
- ・ 教科の学力調査では、小・中学校ともにA問題は全国平均と同等、またはそれを上回る結果になった。以前は、全国比でマイナスの幅が大きかったときがあったが改善されてきた。
- ・ 児童・生徒質問紙調査結果では、家庭学習を計画的に行う児童・生徒が増えてきていることや児童・生徒の主体的・探求的な学習態度の向上と、教師の授業改善に取り組む姿が数値として表れてきた。

(2) 課題

- ・ 小・中学校ともにB学力が全国平均を下回った。
- ・ B問題は、国語ばかりでなく、算数・数学においても、長文で難解な問題があり、問題文の読解に困難を抱える児童・生徒が少なくなく、今回の結果につながっていることが十分にある。
- ・ 日頃から読解力の向上を目指すとともに、基本問題ばかりでなく、応用問題、発展問題を着実に授業の中で取り入れるなど、児童・生徒の学習に工夫が求められる。
- ・ A問題では、ほぼ良い結果を出しているため、様々な問題に慣れるような学習方法の改善が求められる。

また、携帯電話等の使い方についても家庭とともに対応を進めていく必要がある。

3 今後の対応

(1) 調査結果の分析と検証

- ・ 全国学テでの各小中学校の課題を明確にするために、正答率の低い問題を整理した資料を作成し、各校に配付する。
- ・ 各校は、自校の結果を分析、検証し、正答率の低い設問に集中的に取り組む。

(2) 授業改善

① 文部科学省の「授業アイデア例」の活用

- ・ 正答率の低い設問の改善のために、文部科学省の授業アイデア例を活用した授業に取り組むよう指示する。

② 校内研修

- ・ 児童生徒のつまずきの原因を把握し、校内職員研修で全国学テ調査問題を、全ての教職員または教科部員が解いたり、つまずきの原因を共有したりして授業改善につなげるよう指示する。

③ 授業改善の取組

- ・ 日々の授業改善のために、「授業改善チェックリスト」を使った授業改善の取組を、教育委員会指導主事訪問時に確認している。

(3) 家庭学習習慣の定着

① 中学校区ごとの家庭学習強調週間の取組

- ・ 家庭学習への取組を改善するために、同じ中学校区の小学校・中学校で連携して「家庭学習強調週間」を充実させる取組を進める。
- ・ 中学校のテスト期間に合わせた小・中学校同時実施の「家庭学習強調週間」の設置、提出された課題の確実な点検や家庭学習の保護者への協力の呼びかけ等、取組を推進するよう校長会に指示する。

② メディアの正しい使い方についての指導

- ・ 子ども課親子健康係と連携し、携帯電話をはじめとする身の回りのメディアの正しい使い方を周知する機会をつくる。
- ・ また、家庭で過ごす時間の使い方を児童・生徒に考えさせ、家庭学習時間を確保できる生活習慣づくりの指導を行うよう各学校へ指示する。

※ A問題は、主として「知識」を問う問題。

身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などが、問われます。

※ B問題は、主として「活用」する力を問う問題。

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力などが、問われます。

1 成果が顕著な項目

- ・ 「家で計画を立てて勉強していますか。」の割合が前年度より向上している。
(前年度比小学校+8.9 中学校+6.6)
- ・ 「前学年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。」
(全国比小学校+20.4 中学校+22.2)
- ・ 「今住んでいる地域の行事に参加しています。」の割合が依然として高く、郷土を愛する心が育っている。
(全国比小学校+22.1 中学校+12.5)
- ・ 自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取りくんでいた。
(全国比小学校+12.1 中学校+11.7)
- ・ 話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた。
(全国比小学校+11.6 中学校+13.7)
- ・ 目標が示されていた授業を受けた。
(全国比小学校+5.5 中学校+5.3)
- ・ 学習内容を振り返る活動をよく行う授業を受けた。
(全国比小学校+7.8 中学校+9.8)

2 課題が顕著な主な項目

- ・ 中学生の携帯電話等の使用時間がかかり多い。
使用時間 1 時間未満の割合が低い。(全国比: -18.3)
- ・ 中学生の授業以外の学習時間は、今年度も低い傾向にある。
全国比較でも -23.9(平日) -20.5(休日)ポイントとかなり低い。
復習や予習をしている割合も全国や県に比べ低い傾向にある。
(復習: -14.2 / 予習: -17.0)

平成 29 年度 1 学期陰山メソッドの取組と結果

1 陰山メソッドを活用した集中力を養う取組の実施

陰山氏の教育手法は、「基礎的な生活習慣を身につけさせること」と「反復練習の徹底」にある。手立てとして「百マス計算」「音読」「漢字指導」を提案している。

(1) 全小学校の実情に応じた百マス計算・音読・漢字の取組

基礎学力の向上及び集中力養成のために、各学校の実情に応じ朝学習や授業時間の始めに実施するよう指示する。各校の取組状況と、成果を各校が取組に活かせるよう校長会等の場で情報提供する。

(2) 研修会の実施

全職員が陰山氏による示範授業参観や、講演を通し、陰山メソッドの正確な実施方法を身に付けられるよう、研修会を実施する。

2 1 学期の百マス計算タイム集計の結果（別紙参照）

- ・ 4分以上かかる児童の数が減少している学校が4校ある。また、1分30秒以内の児童数が増えている学校もある。陰山メソッドの効果が出ていると思われる。
- ・ 全体として引き算のタイムが、他の演算に比べ遅い。
- ・ 昨年度から引き続き陰山メソッドを継続しているモデル校のタイム結果から、目標の2分以内の児童の割合が多いことと4分以上かかる児童の割合が少ないことが分かる。

3 2 学期以降の確認事項

- ・ 百マス計算は、たし・ひき・かけ算のすべてを行うことを基本とする。
- ・ 毎日行うことを基本とし、各校の教育課程内で実施できる範囲で位置付ける。少なくとも1週間に1回は実施する。
- ・ 2学期目標タイムを次のように設定する。

たし算	2分以内終了者の割合を	30%	(1学期	23.4%)
引き算	2分以内終了者の割合を	20%	(1学期	13.8%)
かけ算	2分以内終了者の割合を	45%	(1学期	38.7%)
- ・ 正確な方法で実施するため、職員は、年3回行われる陰山メソッド学力向上研修会に参加する。

第1回目	6月14日	糸魚川小学校	} 1年に1回参加する
第2回目	11月15日	西海小学校	
第3回目	12月4日	中能生小学校	

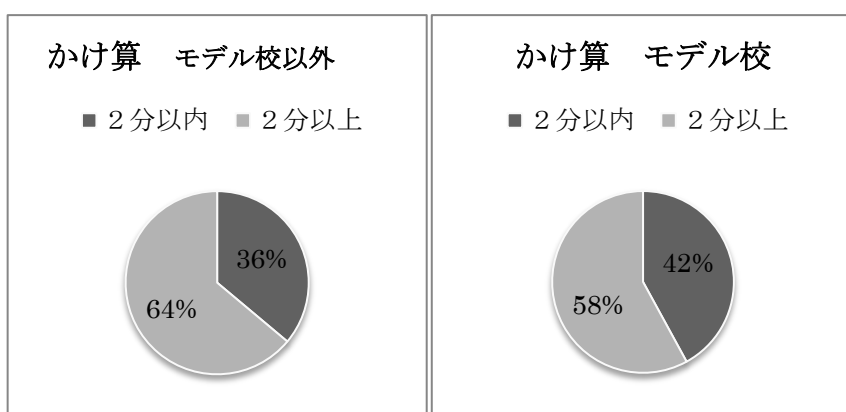
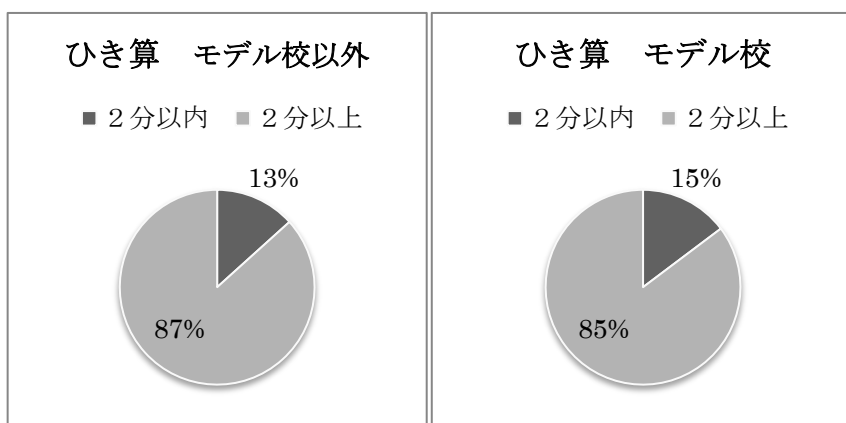
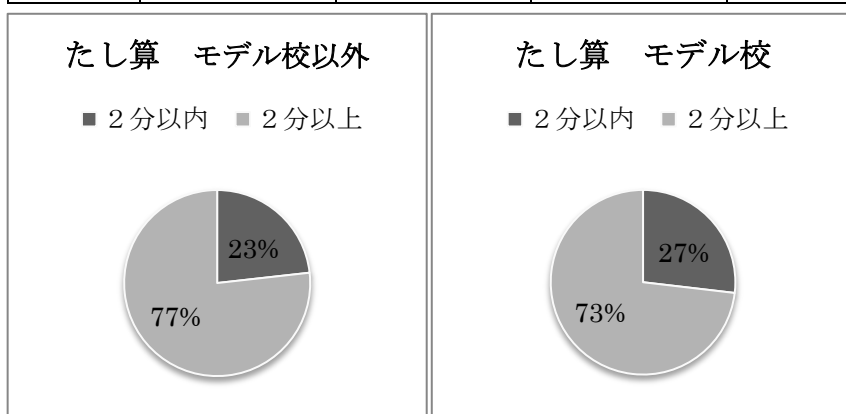
<別紙>

1 平成 29 年 7 月結果：参加児童数 のべ 2,827 人 モデル校除く／（単位％）

時間 区分	0～59 秒	1 分 00 秒～ 1 分 29 秒	1 分 30 秒～ 1 分 59 秒	2 分台	3 分台	4 分以上
たし算	0.2	8.8	14.0	30.0	19.0	27.0
ひき算	0.0	4.2	9.1	22.6	19.0	45.0
かけ算	0.1	12.0	24.0	38.7	14.2	11.0

2 平成 29 年 7 月 陰山メソッドモデル校 3 校結果／（単位：％）

時間 区分	0～59 秒	1 分 00 秒～ 1 分 29 秒	1 分 30 秒～ 1 分 59 秒	2 分台	3 分台	4 分以上
たし算	0.9	9.8	16.1	30.2	18.3	24.5
ひき算	0.3	2.7	11.6	23.5	20.0	41.0
かけ算	0.6	11.4	30.0	32.7	15.8	9.4



IV. 累積資料

今回と過去3年間に於いて実施された教科と学年について、各学年の教科の偏差値平均が打ち出されます。同一集団の偏差値の推移を見るときには、同じ色のマスを見ることで確認できます。

国語				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年	51.8	52.3	53.3	53.4
3年	52.5	53.2	53.1	52.9
4年	54.3	53.7	54.0	52.6
5年	53.7	53.0	53.1	52.2
6年	52.8	52.1	52.0	52.7
全体	53.0	52.9	53.1	52.8

社会				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年				
3年				
4年	54.8	51.8	51.9	52.6
5年	51.7	52.8	52.2	50.9
6年	52.8	51.4	50.0	51.5
全体	53.1	52.0	51.3	51.6

算数				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年	52.7	52.4	53.0	54.0
3年	52.5	54.0	53.2	53.9
4年	55.0	54.0	54.1	54.2
5年	53.7	54.0	53.5	52.9
6年	53.0	53.7	52.2	53.0
全体	53.4	53.6	53.2	53.6

理科				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年				
3年				
4年	55.7	54.0	53.5	53.8
5年	52.9	53.0	52.4	51.4
6年	52.5	52.3	50.0	51.2
全体	53.7	53.1	51.9	52.1

教科総合				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年	52.2	52.4	53.2	53.7
3年	52.5	53.6	53.2	53.4
4年	54.9	53.4	53.4	53.3
5年	53.1	53.2	52.8	51.9
6年	52.8	52.4	51.1	52.1
全体	53.1	53.0	52.6	52.7

教科総合				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年	52.2	52.4	53.2	53.7
3年	52.5	53.6	53.2	53.4
4年	54.9	53.4	53.4	53.3
5年	53.1	53.2	52.8	51.9
6年	52.8	52.4	51.1	52.1
全体	53.1	53.0	52.6	52.7

IV. 累積資料

今回と過去3年間に於いて実施された教科と学年について、各学年の教科の偏差値平均が打ち出されます。同一集団の偏差値の推移を見るときには、同じ色のマスを見ることで確認できます。

国語				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年	52.3	51.5	52.2	52.4
2年	49.9	51.0	50.7	50.2
3年	50.9	50.9	50.5	51.2
全体	51.0	51.1	51.1	51.3

社会				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年	51.0	49.9	49.8	50.3
2年	48.1	49.6	49.3	49.7
3年	49.2	51.0	49.1	48.5
全体	49.4	50.2	49.4	49.5

数学				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年	52.6	51.4	52.1	52.2
2年	49.3	49.0	49.4	49.4
3年	48.5	48.6	48.6	48.2
全体	50.1	49.7	50.0	50.0

理科				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年	51.2	51.2	51.1	51.3
2年	48.1	48.9	46.2	45.8
3年	49.5	48.1	48.2	47.3
全体	49.5	49.4	48.4	48.2

英語				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年				
2年	50.1	51.2	50.3	49.4
3年	49.9	49.9	48.5	48.1
全体	50.0	50.5	49.4	48.8

教科総合				
年度 学年	2017	2016	2015	2014
1年	51.8	51.0	51.3	51.6
2年	49.1	49.9	49.2	48.9
3年	49.6	49.7	49.0	48.7
全体	50.1	50.2	49.7	49.6